

那珂川に生息するヤマメ・サクラマス産卵場調査（平成 29 年度）

綱川孝俊・横塚哲也・小堀功男

目 的

那珂川水系にはヤマメ・サクラマスが生息しており、釣りの対象として利用されている。しかし、いつ、どこで、どのような大きさの個体が産卵しているかなど、産卵に関わる生態は不明であり、遊漁資源として持続的な利用を検討するための情報が不足している。そこで、昨年度に引き続き、産卵場調査を実施した。

材料および方法

2017 年 9 月下旬から 11 月中旬にかけて那珂川本流（木ノ俣川を含む）、那珂川支流の箒川（表 1）を踏査し、産卵床の数、産卵床にいる親魚の尾数や大きさを記録した。親魚の大きさの計測は水面上から目視観察により行い、全長 20 cm 未満、20 cm 台、30 cm 台、40 cm 台、50 cm 台の 6 つに区分した。また、全長 30 cm 台以上の親魚が産卵床に確認された場合は、投網を用いて採捕し、パーマークと腹部青斑点の有無からヤマメとサクラマスの判別を行った。¹⁾

結果および考察

10 月中旬に襲来した台風の影響を受け、確認された産卵床は 10 月中旬と 11 月中旬に延べ 29 床と 2016 年（94 床）に比べて極めて少なかった（表 1）。2016 年の産卵終期は 11 月中旬であったが、²⁾ 当年も同様の結果となった。箒川では 10 月上旬の調査で産卵床は確認できなかったものの、遊泳する全長 50 cm 台の親魚が観察されたことから、箒川における産卵は 10 月上旬ごろから開始している可能性がある。産卵盛期や産卵開始時期を的確に把握するため、引き続き那珂川本流や箒川における調査を継続する必要がある。

親魚は 29 床のうち 10 床（那珂川本流木ノ俣川 6 床、油井上流 2 床、箒川大黒岩 2 床）で観察され、木ノ俣川の 6 床はすべて全長 30 cm 未満の親魚であった（図 1）。全長 30 cm から 40 cm 未満の中型サイズの親魚は油井上流の 2 床、箒川大黒岩の 2 床の計 4 床と少なか

った。油井上流の 2 床で観察された親魚は、それぞれ全長 30 cm 台の雌のみ、全長 40 cm 台の雌雄であった。また、箒川大黒岩の 2 床で観察された親魚は、それぞれ全長 40 cm 台の雌のみ、全長 30 cm 台の雌雄であった。このうち、油井上流で観察された全長 40 cm 台の雌雄のうち、雌を採捕したところ、パーマークや腹部青斑点が確認できず降海型のサクラマスと考えられた。¹⁾

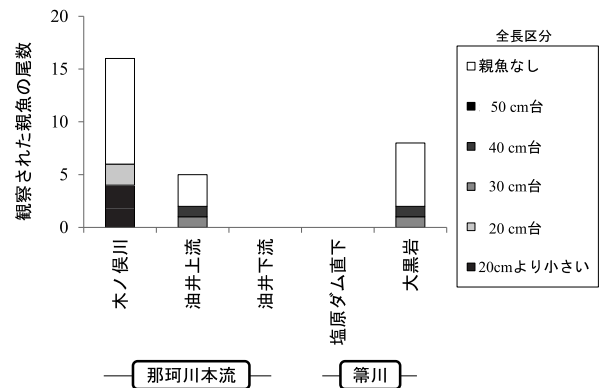


図 1 産卵床 29 床で観察された親魚の大きさと尾数

産卵に参加する親魚の回遊型を把握することは、那珂川における資源の増殖および保護の対象を定めることや、その手法を検討するうえで重要となる。今後も調査を継続し、那珂川の主要な産卵場におけるヤマメ・サクラマスの繁殖状況を明らかにする必要がある。

引用文献

- 1) 綱川孝俊・白井厚太郎. 那珂川に生息するヤマメ・サクラマスの形態的特徴に基づいた回遊型判別方法の検討. 栃木県水産試験場研究報告 2018; 61: 59-61.
- 2) 綱川孝俊・横塚哲也・小堀功男. 那珂川に生息するヤマメ・サクラマスの産卵場調査. 栃木県水産試験場研究報告 2018; 61: 68-70.

(指導環境室)

表 1 那珂川本流および箒川で確認された産卵床数

河川名	場所名	調査距離 (km)	調査時期/日における産卵床数							
			9月下旬	10月上旬	10月中旬			10月下旬	11月中旬	
			9月20日	10月2日	10月11日	10月16日	10月17日	10月31日	11月13日	11月14日
那珂川本流	木ノ俣川	0.92	0	0	0	16 (6)	-	0	0	-
	油井上流	0.58	0	0	0	4 (2)	-	調査不可	1 (0)	-
	油井下流	0.71	0	0	0	0	-	調査不可	0	-
箒川	塩原ダム直下	0.33	0	0※	0	-	0	調査不可	-	0
	大黒岩	0.48	0	0	0	-	2 (2)	調査不可	-	6 (0)

() 内は確認された産卵床数のうち、親魚が観察された産卵床数を表す。
 ※産卵床は確認できなかったものの、親魚（全長50cm台）が2尾確認された。